

## 地域の魅力発信セミナー(第25回駐日外交団の地方視察ツアー)

平成29年9月27日、外務省と群馬県との共催で、標記視察ツアーを実施し、駐日各国外交団14か国から計23名が参加しました。

今回の群馬県へのツアーでは、同地域の文化、産業等への理解を深めることを目的とし、各視察先にて参加者に対して、各施設の取組等が紹介されました。

朝、織物参考館“紫(ゆかり)”に到着した外交団は、群馬県のマスコット「ぐんまちゃん」と桐生市マスコットキャラクター「キノピー」からお出迎えを受けました。織物参考館“紫”では実際に使われていた各種の織機を見学し、織物業の変遷を学ぶとともに、実際に機織りを体験した参加者もいました。見学の後は、ハンカチの藍染め体験を行いました。白いハンカチを輪ゴムで縛って染料に浸した後、水で複数回洗い流すことで完成。参加者は自分の藍染めハンカチのできばえに満足していた様子でした。敷地内では機械織りによる浮世絵の桐生織も販売されており、多くの参加者が訪問の記念に複数枚購入していました。

織物参考館“紫”からは、観光促進のために産官学で共同製作された低速電動コミュニティバス「MAYU」で、次の目的地「四辻の齋嘉」まで移動。最高時速が19kmとゆっくりなので、桐生の古き良き街並みを味わうのに最適でした。四辻の齋嘉は織物商の本宅として明治時代に建てられた木造の古民家。織都桐生の往時の繁栄を感じることもできる、様々な趣向を凝らした邸宅を見学しつつ、一部の参加者は展示されていた着物を羽織る体験をしました。

四辻の齋嘉を出て、ふたたび「MAYU」に乗り込んだ外交団は昼食レセプションの会場となるフレンチ・レストラン「ショコラ・ノア」に移動。昭和初期に建てられた和洋折衷の建物は2015年に有形文化財に登録されています。群馬県で採れた食材を活かして作られた料理の数々に外交団も舌鼓を打っていました。また、デザートヨーグルトムースのお皿には、オーナーシェフが参加者の目の前でフルーツソースで絵を描く演出があり、参加者たちを大いに喜ばせていました。

平成 29年10月  
地方連携推進室



ぐんまちゃん  
キノピーの歓迎を受ける外交団



藍染めハンカチ完成  
そのできばえにニコリ



古民家「四辻の齋嘉」で  
着物を羽織る参加者



群馬県が誇るすき焼きをなんと冷製のゼリー寄せで提供  
(群馬県はすき焼きの材料を全て県内で賅えることで有名)

昼食を終えた外交団は、総合事務機メーカーの株式会社トヨタプロダクツを訪問。同社においては、簡単に組立や分解ができ、空間に合わせた自由な設計のできる家具システム「CREAS」と、災害用浄水器に関する説明がなされました。特に浄水器は、既に世界の災害現場で活用実績があるほか、複数の駐日大使館でも導入されており、外交団から高い関心が示されました。

最後の訪問先となるサンデンフォレストは、コンプレッサーや自動販売機などを製造するサンデンホールディングス株式会社が、「環境と産業の矛盾なき共存」というコンセプトのもと、21世紀に通用する環境依存型の工場を目指して建設した事業所で、その取り組みは経済協力開発機構（OECD）から「Sustainable manufacturing good practices」世界7社のうちの1社として紹介されるほど。参加者は、同事業所の有するビオトープ（注：生き物が水に近づけるように配慮した池）などで豊かな自然に触れた後は、まだ実用化されていない過冷却自販機のデモンストレーションを見学。液体が凍り始める手前ぎりぎりまで冷やしたびんを開栓すると、グラスに注いだジュースがシャリシャリしたシャーベット状に変化する様子には外交団からも驚きの声が上がりました。

今回のツアーの共催団体である群馬県からは「繊維産業の歴史や農畜産物、最先端の技術など、本県の魅力を発信することができてよかった。今回のご縁を生かして、参加各国との連携を進めていきたい」といった声が聞かれました。

また、参加した外交団からは「次は温泉宿に泊ってみたい」「都会から離れた地域のさまざまな側面について発見できた」との声がありました。

#### 【プログラム・訪問先】

- 織物参考館「紫」
- 低速電動コミュニティバス「MAYU」
- 四辻の齋嘉
- フレンチ・レストラン「ショコラ・ノア」
- 株式会社トヨタプロダクツ
- サンデンフォレスト



実際に浄水器を  
操作してみる参加者



サンデンフォレストには、毎年  
多くの方が見学、視察に訪れるそう